

2018年中国医師会学術会議の件

1. 出張期間：平成30年1月25日～28日
2. 場 所：北京市（中国）
3. 出張者：横倉会長
 随 行：能登国際課長
4. 内 容：

平成30年1月26日、27日にかけて「学術交流の強化及び医学の発展の促進」をテーマに開催された中国医師会主催による標記学術会議、及び「医師会間の一帯一路フォーラム」、「第2回PAK-CHINA医学会議」に横倉会長が日本医師会長、世界医師会長として招待を受け出席し、挨拶及び「日本医師会の役割と将来像」について講演した。参加者は12か国から約1,000名であった。26日の会議冒頭、中国医師会 馬曉偉（マー・シャオウエイ）会長は、国家の経済的、社会的発展のために国民の健康を中心に置く「健康中国2030」の取り組みを紹介。そこでは、治療から予防医療重視への移行、イノベーションによる医療、公衆衛生システムの改善と強化、西洋医学と中国医学双方からの医療サービスの提供等、国民の多様な健康ニーズに応えた国民中心の健康戦略の展開を中国医師会として支援していることを述べた。当日午後には、中日友好病院を訪問し、劉 鵬（リュウホウ）副院長、尹勇鉄（イン・ユウ・テツ）事務室主任、孟華川（モウ・カ・セン）国際交流室主任補佐と面談。その後病院の視察を行った。中日友好病院は日本政府の無償資金援助により、両国政府が共同して建設した病院で、1984年10月23日に開院、中国衛生部が直轄管理している。

27日、横倉会長が世界医師会長、日本医師会長として挨拶を行い、WMAの活動、WHO等国際機関との連携、持続的開発目標（SDGs）、健康の社会的決定要因（SDH）の取り組みを通じたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の推進についてWMA会長としての考えを示した。午後には、饒克勤（ケクイン・ラオ）副会長他中国医師会との面談が行われた。ラオ副会長から両国医師会の交流、協力関係のあり方についての発言を受け、横倉会長は、今後直接交流を通じて、毎年北京と東京で意見交換の場を設けることの提案を行った。また、ラオ会長は、世界の医師会、医学会を招いた会合を世界医師会、ユーラシア医学連盟の協力を得て開催し、医療の発展のあり方を問い、日中両国の経験、成果を途上国に伝えていく場とすることの提案があり、世界医師会長である横倉会長に支援を求めた。

2018 年中国医師会学術会議総会

第 2 回 Pak-China 医学会議・医師会間一帯一路フォーラム

議事日程

1 月 26 日（金）

司会：中国医師会 ZHAO Yupei 副会長

挨拶 馬曉偉（マー・シャオウェイ）中国医師会長

デビット・バーブ アメリカ医師会長

09:00-12:00

各診療科における発展の報告

1. 中国における内科の発展
2. 中国における外科の発展
3. 中国における産婦人科の発展
4. 中国における小児科の発展
5. 中国における整形外科の発展
6. 中国における救急医療の発展
7. 中国における臨床薬理学の発展
8. 中国における実験医学

18:00-20:00 歓迎夕食会

1 月 27 日（土）

08:30-09:20 第 2 回 Pak-China 医学会議・医師会館一帯一路フォーラム開会式典

主宰： Keqin Rao 中国医師会副会長

挨拶 馬曉偉（マー・シャオウェイ）中国医師会長

横倉義武世界医師会長・日本医師会長

Kaiyang Liu 中国民間組織国際交流促進会事務局次長

Qinglin Wang 中国科学技術協会国際協力部副局長

中華人民共和国保健・家族計画委員会役員

Ashraf Nizami パキスタン医師会長

Aizhan Sadykova ユーラシア医学連盟議長

09:30-12:30 セッション I : 医師会間における一帯一路フォーラム

トピック：医師会間の交流における一帯一路プラットフォームの構築

海外医師会による発表

アメリカ医師会

イギリス医師会

タイ医師会

日本医師会

日中医学協会

武田科学振興財団

パキスタン医師会

カザフスタン医師会

ブルガリア医師会

ドイツ医師会

スリランカ医師会

ミャンマー医師会

香港医学教育学院

香港医学学院

マカオ医師会

中国医師会

討論

まとめ